

子どもへ向けた舞台表現構成の指導

—第15回キッズフェスタの実践報告を基に—

Guidance of the stage expression construction for the children

—A Case Study based on a Presentation at the 15th Kids festival—

環太平洋大学短期大学部人間発達学科

吉井ゆだね

YOSHII, Yudane

IPU Women's College

Department of Human Development

要旨：本実践報告は第15回キッズフェスタでの本学学生の研究発表に取り組んだ成果と課題について考察することを目的とした。食育をテーマに子どもへ向け理解しやすい表現活動の研究発表の場を設ける事により、環太平洋大学短期大学部人間発達学科子ども教育専攻の学生の将来の保育者としての企画力、実行力、構成力等を養うことにつながる。

キーワード：子ども、表現、保育者養成、キッズフェスタ

1. はじめに

キッズフェスタとは平成15年（2003年）に始まり、平成30年で16回目を迎える子どもへ向けた舞台行事である。環太平洋大学短期大学部人間発達学科子ども教育専攻の学生（以下本学学生とする）の保育士資格、幼稚園教諭資格取得の際に行われる保育実習、幼稚園実習の園児を会場の南予文化会館へ招き舞台表現を行う。その進行は本学学生によって企画運営される。歌、劇、手遊びを披露し記念撮影子ども教育専攻における表現活動の学びの集大成である。

本稿は平成29年12月第15回キッズフェスタでの本学学生の研究発表に取り組んだ成果と今後の課題について考察し、将来を担う保育者として子どもへ向け表現の意義を明らかにしたい。

2. 研究の目的

将来保育士、幼稚園教諭を目指す本学学生に子どもへ向けた表現活動の重要性を伝えることを目的とする。

3. 研究の方法

- (1) キッズフェスタの主題を決定する。キッズフェスタ総リーダーを中心とする2年生で話し合い、複数の候補の中より主題を検討する。その中より第15回は食育を主題とした。
- (2) 発表内容の構成を決定する。子ども達にとってなじみ深い食育を主題としているが、どのように伝えたと理解をしやすいか考える。赤、黄、黒、緑の4グループに分かれ各食品の性質を理解してもらいやすいよう、物語の盛り上がりを考慮して全体の構成を練る。これ以降この4グループを基準として進行していく。赤は蛋白質、黄は炭水化物や脂質、黒はお菓子を中心に子ども達の好む嗜好品、緑は野菜という役割分担となる。
- (3) 加学生の役割を決定する。全体を統括する総リーダーと副リーダーをはじめ、グループ内ではほぼ全員が何らかの配役と大道具制作を担当する。また、幼稚園教諭資格取得の都合上健康スポーツコース等子ども教育専攻以外の学生3名も撮影や照明といった裏方として研究発表に参加する。1年生はグループごとに歌やダンスを



図①当日の園児対応の様子



図②ポスターとパンフレット



図③④実際に使用した大道具類



担当した。他にも来場した園児対応（図①）、受付、園児に渡すお土産管理やパンフレットやポスター制作（図②）、照明や撮影等裏方の役割も分担した。

- (4) 台本を制作する。グループごとに配布し全体の流れを把握する。
- (5) 大道具制作を進める。蛍光塗料とブラックライトを用いて行うブラックシアター用、劇の背景、小道具、歌や踊り用の衣装、会場受付付近に設置する写真撮影コーナー等が主な大道具となる。大道具の素材としては身近な段ボール、角材、布、絵の具類を使用する。舞台上で自立可能な構造や視覚的効果を重視して制作する。ブラックシアター用大道具は暗い中で使用する為、特に転倒が無いように注意する。（図③④）
- (6) 台本を基に歌、踊り、劇の練習を行う。各グループの演技力向上に加え舞台上での演出やスムーズな進行ができるように配慮する。全体の通し稽古も何度も行い、研究発表に携わる学生全体が協力し合い練習に取り組む。本番1か月前には実際の会場に出向きリハーサルも行う。

4. 研究発表

当日は宇和島市内の実習園の子ども達を中心に迎え、事前に作成していた映像作品をプロジェクターにて投影した。園により到着時間に差が出る為、早く会場に入った子ども達にも待ち時間も楽しく過ごしてもらう工夫を凝らした。全園がそろったところで舞台上での挨拶、実際の演技に入る。普段の園とは違う非日常な場においてもキッズフェスタの上演内容に入り込みやすいよう、明るくゆっくりとした話し方やこれから行われる歌や劇のわくわく感を伝え期待を持たせる。

実際の演技中、音響や照明のタイミングを見極め上演内容が間延びしないよう注意する。練習時は演者の動きや台詞と効果音の間は対応するまでに時間がかかることが多く、その都度劇の流れが中断してしまった。南予文化会でのリハーサル時は音響に加え照明の動きも重要となる。流れを切らずに自然に観客を引き寄せるタイミングを覚えることも重要となる。内容は主役の園児二名が赤の星、黄色の星、緑の星を巡り、初めは肉やお菓子など好きなものばかり食べていた主



図⑤⑥大きな身振りや動きを描えた演技の様子

役達が、あまり好きではない野菜も食に取り入れることにより元気な体を作り食育の大切さに気が付くというストーリーである。内容を通じてキッズフェスタを楽しみ、好き嫌いをなく食事を摂る大切さを子ども達に伝える狙いがある。

舞台の上でより効果的に演技を見せる演出として、曲に合わせて大きな身振りをする、動きを描える（図⑤⑥）、照明の激しい動きやミラーボールの使用（図⑦）等もあげられる。



図⑦ミラーボール使用の様子

これらの上演内容に加え、観客となる子ども達や引率の先生方へ配慮する。途中で子ども達をトイレへ誘導し休憩を挟む。また、その際には手遊びを舞台上で行い待っている子ども達が退屈をしないよう楽しませる工夫を凝らす。

休憩後は照明を落とした空間でのブラックライトシアターも行われるが、足元の安全や会場内が暗転することへ子ども達が驚かないよう、事前にアナウンスを行った。暗い舞台で蛍光塗料による大道具がブラックライトに照らされ浮かび上がる様は幻想的であり観客の心を魅了する。非日常感クライマックスを迎え、内容は食育に関してのメッセージ性の最も強いラスト

部分に差し掛かった。アップテンポの音楽とダンスにより、観ている側も踊りだしたくなるよう演出を凝らす。客席の間にも学生が回り、一緒に歌い踊ることで子ども達により身近に臨場感を感じてもらう。ラストのエンディングは出演者全員がステージに集まり合唱する。一番印象に残りやすく、キッズフェスタの参加者全員が心をつなげる感動的な場面である。

エンディング後は参加園の先生方の中より講評を戴き、終了の挨拶を以って閉場となる。この際も交通機関等に配慮し、退出する園を誘導する。また、ロビーに出演者が向かい、長い花道を作る。帰る子ども達へ声をかけ笑顔で見送る。南予文化会館を出る最後の瞬間まで楽しかったという想いで帰園してほしい、そんな気持ちを学生たちは抱きながら手を振って見送った。

5. 結論と今後の課題

今回の研究発表を通し普段は個人としての学習が多い学生に対して、大人数で協力し、一人ではなし得ない大がかりなイベントを成功させることができた。自らの表現発表の場という側面もあるが、子ども達にメッセージを伝え楽しんでもらう、保育者としてより大きな目標を達成できたことは非常に大きな意義がある。これは自らの演技や歌、制作物の発表としての表現活動にとどまらず、将来の保育者としての大きな財産になり、この経験が就職後も活かされると考えられる為である。保育者同士での連携の取り方や子ども達への指示の出し方、大人数で動く際の大きな視点等は実際の保育現場で役立つスキルや保育者としての資質向上に繋がる。自らを一作業員として細かな内容に没頭せず、常に多方面へアンテナを張り全体の計画や進行を意識する能力を学生自身が発掘し、伸ばし見つけ

直す為の最適な体験であると考える。

今後も短大側がさらなる教育的な視点を模索し学生と共に継続して活動が続けていくことが望ましい。

参考文献

- 松本千代栄選集 2 人間発達と表現～幼・小期～ 舞
踏文化と教育研究の会編 2008 明治図書
- 松本千代栄選集 3 人間発達と舞台創作 舞踏文化と
教育研究の会編 2008 明治図書
- 人形芝居と保育 松葉重庸著 白眉学芸社